

目黒蒲田電鉄東京横濱電鉄 沿線名所案内

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

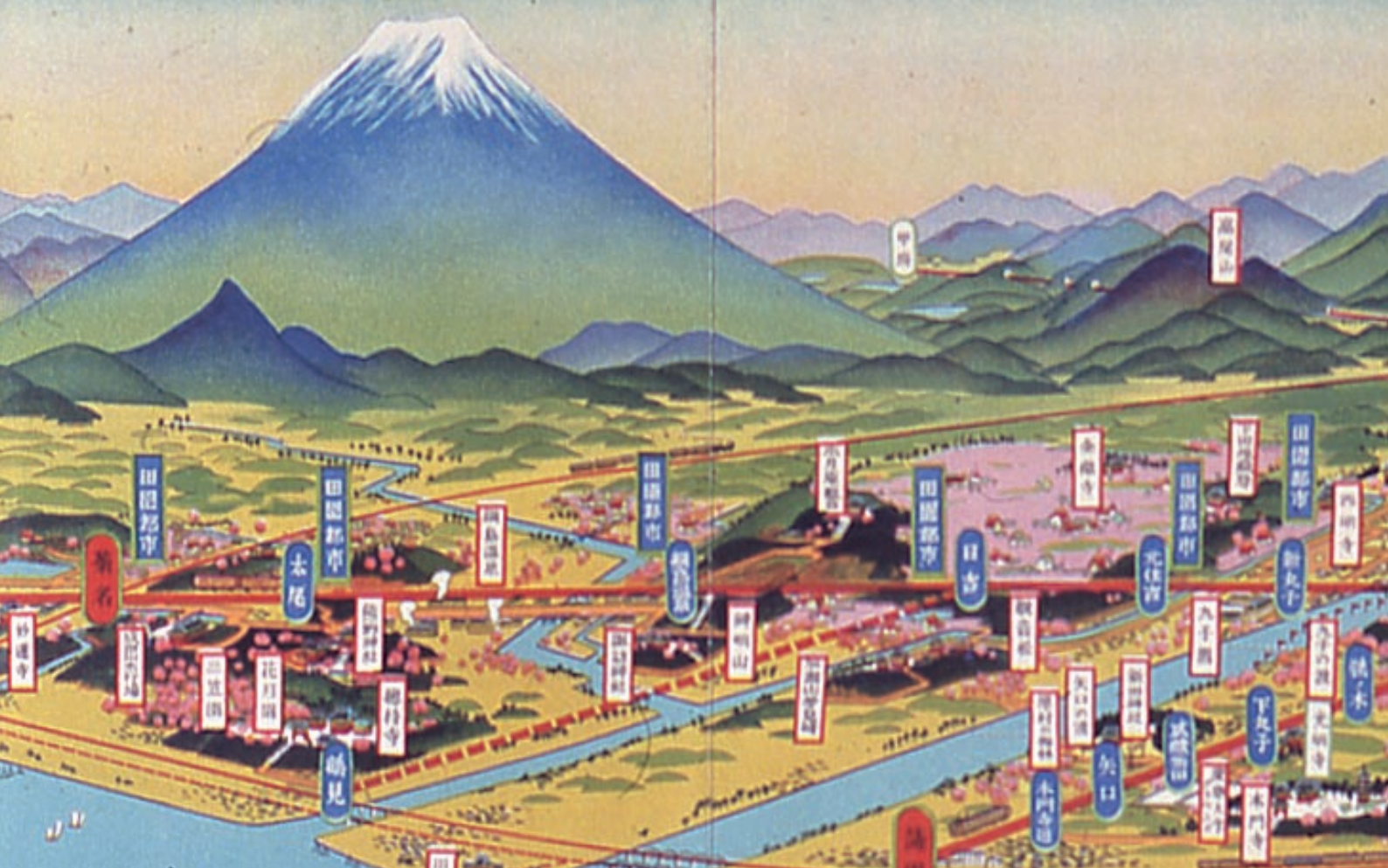
目黒蒲田電鉄・東京横濱電鉄は、東京急行電鉄株式会社（東急電鉄）の前身のひとつ。

秀麗な富士山と田園の近代的な文化住宅の家々を背景に、春の摘み草に興じる母娘を描いた初三郎の表紙絵には、ロンドン郊外の田園都市を視察し、日本でその実現を夢想した渋沢栄一の意向が滲み出ている。

渋沢は非営利の事業として設立した田園都市株式会社を興しているが、大正十一年九月、鉄道部門を分離して設立した目黒蒲田電鉄が鉄道史の始まりだ。その経営に参画した五島慶太が意図したのは、東京都市心に通う勤労者に向けた「田園都市開発の一環としての鉄道事業」構想だった。

初三郎得意の最短経路でイメージ表現し、大正十二年三月に開業した目黒〜丸子多摩川（現多摩川）〜蒲田間と、大正十五年二月に開業した

藤本一美
首都大学東京非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。近著に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』（2006年）がある。



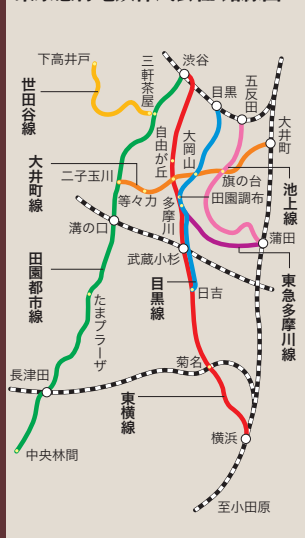
『目黒蒲田電鉄東京横浜電鉄沿線名所案内
[目黒蒲田東京横浜電鉄沿線案内鳥瞰図]
(大正15(1926)年)

図繪と一体化した表紙部分の中央には、渋沢栄一・五島慶太の田園都市構想の守護神であるかのように富士山が聳え立つ。



東京急行電鉄株式会社
Tokyu Corporation
創立：大正11年9月23日
本社：東京都渋谷区南平台町5-6

東京急行電鉄株式会社 路線図



美しい生活環境を創造する

東急電鉄は、鉄道7路線と軌道1路線の計8路線、営業キロ100.1kmで営業。2006年度の輸送人員は民鉄として初めて10億人を超え、1日当たりの換算では279万人の利用者数を誇る。東急電鉄を中核とする東急グループのグループスローガンは「美しい時代へ」。美しい生活環境の創造を自らの事業目的とし、東急沿線が「選ばれた沿線」であり続けるために、交通・不動産・リテールの3つのコア事業の連携により相乗効果を発揮、さらなる沿線価値の向上を目指している。

丸子多摩川〜神奈川（現東急東横線の一部）間のみではあるものの、赤い破線の予定線——神奈川〜横浜、丸子多摩川〜祐天寺〜渋谷〜新宿、渋谷〜日比谷、祐天寺〜二ノ橋、神奈川〜黄金町などの戦略路線を描き込んでいるのは頼もしい。

図柄中、各地に多数散在する田園都市構想の第一弾としての「田園調布」は、放射状街路をもつ高級住宅地とモダン駅舎の立つ計画都市として完成。その後は田園都市線全線開通（一九八四年）の実現へと続く。

その意味で初三郎の筆致は、五島慶太一流の、箱根、伊豆、三浦半島のバックグラウンドをも意識した「大東急」への萌芽を汲み取っていると見えるだろう。

最後に大正十五年新春、この鳥瞰図絵作品に寄せた「絵に添へて一筆」（初三郎識）に言及してみよう。

「帝都通るかに秀麗富士の雄姿を仰げる者、誰かまた嘆賞の辞を惜まざらむや。富士こそ、我等日本人の精華を誇る象徴にして、今や目黒蒲田電鉄は東京横浜電鉄と連絡し、此の壮麗雄大なる風光美を背景として、近代文化の粋を集めたる田園都市の新興と相結び、東京横浜間、最捷経の交通を完成せる事、実に限りなき欣快事である」と語っている。